

リハ専門相談 事例紹介シリーズ⑨

長期的な視点を踏まえた対応

リハ専門相談で対応する症例は様々ですが、特に対象者の年齢が若い場合には、今後の経過をみこして長期的な視点に基づく対応が必要になります。今回はその観点から対応した2症例を報告いたします。

症例1 支援要請機関：相談支援事業者 対応職種：SW、PT、OT

脳性マヒのケース、自宅の新築に伴い今後想定される生活に合わせた住宅環境や福祉用具について、相談支援事業者様を通じてご両親と共に来院して相談がありました。ご本人はまだ幼児ですが、成長した際の介助などの生活負担を減らすために、SW、PT、OTが対応しました。居室や寝室、浴室やトイレの間取り、屋内外への車いすを利用した移動方法、リフター設置する際の場所など具体的な項目に対して検討し、現状考えられる案を提示しました。また、福祉用具のイメージをつけるために、来院の際、ご両親にはリフターの操作や乗車体験の実施、療育園や自立支援ホームの見学を行いました。実際の福祉用具の体験や現場を確認することで福祉用具のイメージをつかめたと思います。

症例2 支援要請機関：訪問ヘルパー事業所 対応職種：SW、PT、OT

症例は当院外来に通院している脳性マヒのケースです。今まではご家族やヘルパーで移乗や入浴を対応してきましたが、徐々に身体への負担が増えています。訪問ヘルパー事業者様のご依頼で介助方法や福祉用具の検討のため、SW、PT、OTがご自宅に訪問しました。現状の介助方法を実際に確認し、上肢の支持の位置や移乗について負担の少ない方法を提案しました。また、今後のことを踏まえ居室や浴室にリフター導入を検討するとともに、通院時には実際にリフター乗車体験を行いました。

2症例ともに、将来にわたりご自宅で生活していくためには、ご本人やご家族ともに安全で負担の少ない生活が望ましく、それを実現するための提案をさせていただきました。専門相談では現状の問題への対応だけでなく、今後想定される問題を踏まえた対応をしていければと考えております。

(小泉 千秋)

